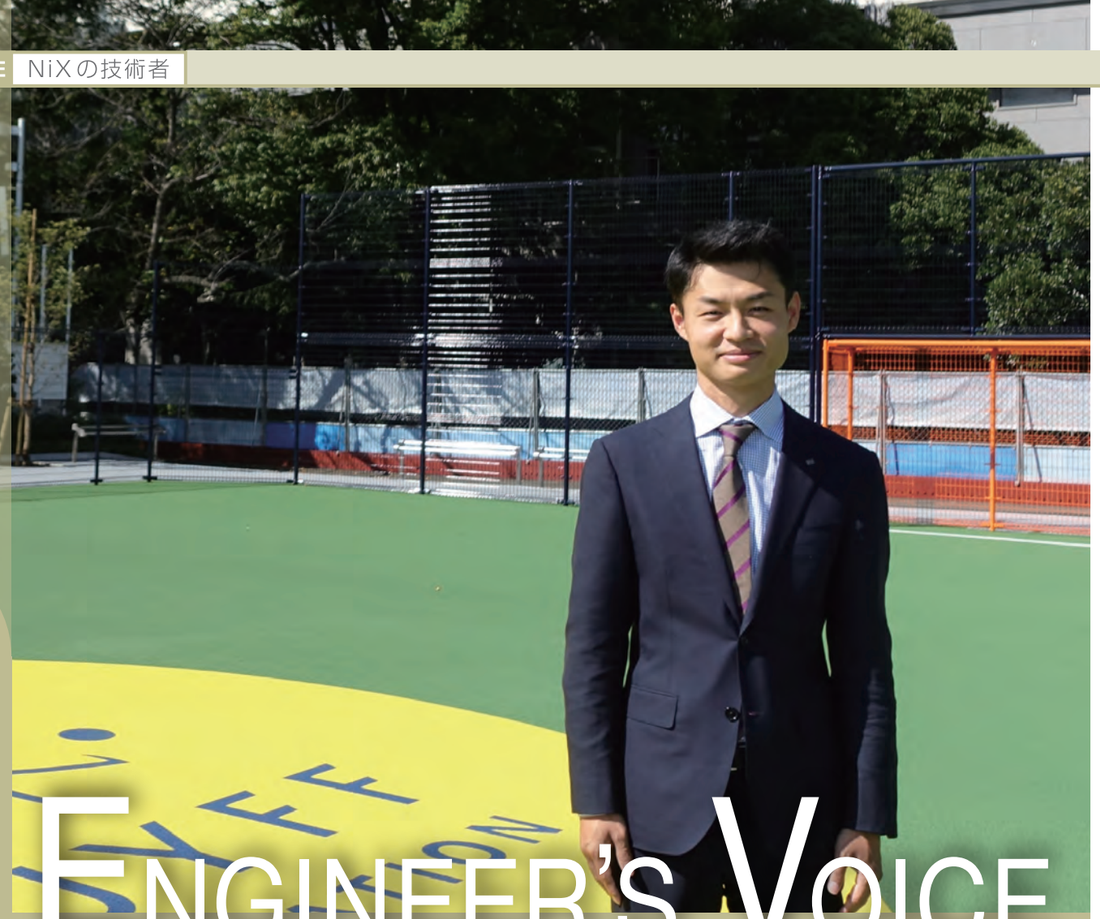


足立区×オランダ連携プロジェクトによる日本初「スペシャル・クライフコート」の設計

ENGINEER'S VOICE

インフラマネジメント事業本部 社会基盤部　都市環境グループ 係長 **大西 太和**

国内初整備事例への挑戦

Q どのような業務に携わりましたか。

足立区の総合スポーツセンター公園に「スペシャル・クライフコート」(以下SCC)というスポーツ施設と、その周辺の園路及び休憩スペースを整備するために設計を行うものでした。SCCとは、オランダの伝説的なサッカー選手、ヨハン・クライフ氏によって設立されたクライフ財団の寄付により、障がいを持った子どもたちも安心してスポーツを楽しむためのスポーツ施設を世界各国に展開しているものであり、日本では初めての整備事例となりました。

完成イメージパース

Q この業務の課題はどのようなものでしたか?

スペシャル・クライフコートは「SPECIAL CRYFF COURT SPECIFICATIONS(スペシャル・クライフコート仕様書)」に準じてコートの設計を実施しましたが、課題は2点ありました。

1つ目は、仕様書はオランダで策定されていることから国内の仕様との整合性を図る必要がありました。特に、車椅子での利用を想定し、車体の旋回による摩耗劣化に耐えうる優れた舗装材の選定が課題となりました。

2つ目は、SCCと隣接するプールの間に休憩スペースを設置する方針としていましたが、プールとの境界にある擁壁により圧迫感があることが考えられるため、擁壁を残しつつ、植栽計画による開放的なスペースを創出する検討を重ねました。

鳥瞰パースにより周辺環境との調和を確認

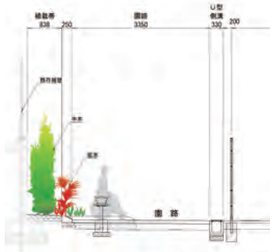
技術者としての思い

Q 課題に対して、苦労・工夫した点を聞かせて下さい。

舗装材の選定にあたっては選定耐摩耗性に優れていることが条件となることから摩耗の加速劣化試験による摩耗厚が標準値以上となるウレタンチップ系舗装を選定することにしました。この舗装材については適度な滑り抵抗についても標準値範囲内に収まっており、結果として本計画の用途に合致した舗装材でした。

また、コート周辺をユニバーサルデザインにすることに加え、公園利用者をSCCに自然と誘導できる動線設計にも努めました。公園の管理棟を備えている体育館のスロープからは一直線で施設に到着するように主要入口を計画することで、イベントや大会運営時にもスムーズな移動ができると考えています。

休憩スペースには車椅子の見学者がゆっくりと立ち止まって休憩できるようベンチ脇に車椅子スペースを設けました。その後方にあるプールの擁壁については、休憩スペースの空間づくりとして緩衝帯となる遮蔽植物の設置を提案しました。具体的には、休憩スペース側から地被類、低木植栽、中木植栽と、高さを多層にすることで緩やかな緩衝帯を施しています。また、樹種については、常緑樹による通年の遮蔽効果を持たせた植物と、季節を感じさせるオウゴンモチの新芽や花期の異なる植栽を計画することで、1年を通して彩りのある植栽計画となり、賑わいある開放的な空間を創造できたと思います。



植栽計画の側面図

Q この業務に携わっての感想、今後の取り組み姿勢を聞かせて下さい。

昨今のスポーツ施設の利用の在り方は、益々多岐にわたっており、パラスポーツの更なる普及もその一つだと感じています。それに伴い、競技施設自体のユニバーサルデザイン化も進んでおり、今後は公園の利用環境だけでなく、スポーツ施設においても、誰もが楽しく利用することができる施設であることが求められる時代になると考えています。

今回の業務を機に、今後はスポーツ施設のユニバーサルデザイン化についても提案材料であると考え、スポーツ施設や都市公園の計画設計について一つ先を見据えた新しい提案が出来るよう取組んで参りたいと思います。

聞き手:NiX情報誌編集委員会

大西 太和　おおにしたいわ
スポーツ施設や都市公園の設計に従事して10年。これまでに官民問わず陸上競技場、野球場、サッカーコート、遊具広場などの設計に携わる。近年ではアーバンスポーツ施設の設計にも従事し、日本のスポーツ施設向上を目指す。